

新ビジョンの体系骨子の立案に際しては、まず、前ビジョンの評価・検証、総合計画等の基幹計画や現行施策との照合をもとに、目指すべき姿（将来像）を設定しました。次に、前章で提示した各種統計データや現状と課題、市内事業者アンケート・ヒアリングの結果を踏まえたSWOT分析を行い、その結果と設定した目指すべき姿（将来像）を突合し、体系骨子を導き出しました。

## 1 目指すべき姿（将来像）の設定

前ビジョンでは、3つの基本方針——「既存の産業のバージョンアップ」、「新たな交流・連携の推進」、「ブランド化の推進」——のもと、9つの基本施策が掲げられ、スタートアップ（立ち上げ）、短期、中長期という時間軸のもとで多くの施策を実施しました。その中でも、令和3（2021）年に開設した上尾中小企業サポートセンターは、刻々と変化する社会・経済情勢に対応するため、不断の機能強化が求められており、本市の産業振興施策の推進において不可欠な拠点となっています。このように、前ビジョンにて提示し、現在も実施している施策には、新ビジョンにおいても継続すべき施策が少なくありません。

こうした継続、またはブラッシュアップして取り組んでいくべき施策の方向性と、第6次上尾市総合計画（後期基本計画）や上尾市都市計画マスタープラン2020などの各計画の施策を照合し、以下のような「目指すべき姿（将来像）」を設定しました。

### ◎目指すべき姿（将来像）

【豊かな暮らしと産業の持続的な発展を支える活力のあるまち あげお】

### ◎基本方針

- ①豊かな暮らしを支える産業振興
- ②持続的発展を支える産業基盤の整備
- ③にぎわいの創出



## 2 SWOT分析の実施

### 1 | SWOT分析とは

SWOT分析とは、①分析対象（上尾市）の持つ内部要因である「強み」・「弱み」と、分析対象を取り巻く外部環境である「機会」・「脅威」を洗い出し、現在置かれている状況を多面的に理解し、その上で、②「強みによって機会を活かす」など、各要素を組み合わせ、的確な施策を導き出す手法です。SWOTのSは「強み（Strength）」、Wは「弱み（Weakness）」、Oは「チャンス（Opportunity）」、Tは「脅威（Threat）」の頭文字です。今回、新ビジョンの策定にあたり、市内事業者（農・商・工）に対するアンケートとヒアリング、各種統計調査の結果を踏まえ、本市について多くのSWOTを洗い出しました。

### 2 | 市内事業者（農・商・工）アンケート

市内事業者（農・商・工）アンケートの実施概要は下表のとおりです。

	市内農業者	市内商工業者
基準日	令和7（2025）年1月1日	
調査方法	郵送およびオンライン	
調査実施期間	令和7（2025）年1月10日～2月28日	
アンケート対象	111件	5,638件
有効回答数 （有効回答率）	73件（65.8%）	1,076件（19.1%）

農業者に対するアンケートでは、農作物の販路、後継者の有無、今後の地域農業の担い手、そして遊休農地への対応など、本市の現在の営農状況と今後の方針・見込みについて調査しました。また、商工業事業者に対するアンケートでは、業況と経営上の課題、本市での事業展開、各種企業行動（事業承継、省力化、SDGsへの取組みなど）、行政の施策（経営支援・相談、産業振興政策など）、現在の経営全般における課題や社会課題、本市の施策における課題を把握するための多岐にわたる項目を設け調査しました。

### 3 | 事業者（農・商・工）ヒアリング

事業者（農・商・工）向けヒアリングは、令和7（2025）年3月～4月に実施しました。農業者については上尾市農業委員会において聴取し、本市の農業の現状と課題や10年先の農業のイメージなどについて聞き取りました。商工業者については、上尾商工会議所をはじめ、各団体の代表企業や事務局、各団体からの推薦事業者を対象に、事業経営の現状や今後の事業展開への意欲・希望、行政への支援要望・新しいビジョンにおける施策提案などをポイントに実施しました。

## 4 | SWOT分析結果

各種統計データの分析や事業者アンケートやヒアリングを踏まえて、本市の産業のSWOTを抽出しました。内部要因である本市の「強み (S)」と「弱み (W)」は下表のとおりです。

内部要因 (上尾市の産業の特性・課題)	強 み (S)	S-1	交通利便性の良さ
		S-2	自然災害の少なさ
		S-3	生活環境の満足度の高さ
		S-4	事業者（農業者）支援の充実
		S-5	製造業の集積度の高さ
		S-6	各産業団体や組織の強固な結束力
		S-7	大型施設（商業・スポーツ）による集客
		S-8	創業環境の整備
		S-9	積極性を保つ起業家意欲
		S-10	商圈人口の多さ
		S-11	イベント開催への積極的な取り組み姿勢
		S-12	潜在的産業資源の存在
	弱 み (W)	W-1	工業製品出荷額の停滞
		W-2	中心市街地（駅周辺）の空き店舗の増加、商店街（会）の減少
		W-3	農業振興地域の整備に関する法律、都市計画法による土地利用制限
		W-4	企業ニーズに対する産業用地の不足
		W-5	経営耕作面積と農家数の減少
		W-6	観光資源・地域ブランド不足
		W-7	中小製造業の経営基盤の不安定さと後継者不足
		W-8	にぎわいスポットの少なさ



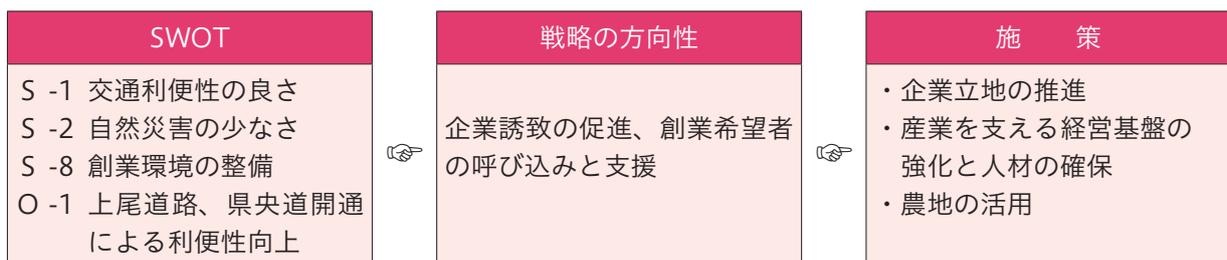
外部環境である「機会 (O)」と「脅威 (T)」を洗い出すと、下表のようになります。

外部環境 (社会情勢の変化・時代の潮流)	機 会 (O)	O- 1 上尾道路、県央道開通による利便性向上
		O- 2 働き方、生活様式、取引手法の多様化
		O- 3 産業構造の変化 (情報化・グローバル化・第三次産業拡大)
		O- 4 AI などデジタル技術の急速な進歩
		O- 5 ゼロカーボンシティへの取組みの推進
		O- 6 スポーツ科学拠点施設開設による交流人口の増加
		O- 7 地域農業の目標地図 (地域計画) の策定
	脅 威 (T)	T- 1 生産年齢人口の減少と高齢化率の上昇
		T- 2 周辺自治体の企業との競争激化
		T- 3 技術や競争力の企業間格差の拡大
		T- 4 事業者の市外への流出
		T- 5 事業者の高齢化、後継者不足、人材不足
		T- 6 営農の後継者不足による遊休農地の増加
		T- 7 実店舗での購買機会の減少
		T- 8 農業機械、資材の高額化による農業収益の圧迫
		T- 9 収益環境の悪化

以上のようにSWOTを整理すると、各要素を組み合わせた施策を考案することができるようになります。組み合わせ方により、①「強み (S) と機会 (O)」から導かれる積極化・成長戦略、②「弱み (W) と機会 (O)」を受けた弱点強化・改善戦略、③「強み (S) と脅威 (T)」を反映した差別化・克服戦略などを考えることができます。それぞれについて一例を示します。

### ① 強み (S) × 機会 (O) (積極化・成長戦略)

本市の強みとして交通の利便性や創業環境が整っていることなどがありますが、これらはさらなる道路整備と相まって、当市の魅力を高めます。こうした中、企業誘致や起業の促進は有望な戦略であり、そのための施策として、企業立地の推進や産業を支える人材の確保などが考えられます。



## ② 弱み (W) × 機会 (O) (弱点強化・改善戦略)

本市のウイークポイントとして、中心市街地（駅周辺）の空き店舗の増加や商店街（会）の減少、経営耕作面積の減少などがあります。しかし、道路交通網の整備が進むことを追い風に、「にぎわいスポットの創出」などの方向性を打ち出せば、現在の弱みを強みに変えることができます。施策としては生活と産業の連動や地場農産物に触れる機会の創出などが考えられます。

SWOT	戦略の方向性	施策
W-2 中心市街地（駅周辺）の空き店舗の増加、商店街（会）の減少 W-5 経営耕作面積と農家数の減少 O-1 上尾道路、県央道開通による利便性向上	にぎわいスポットの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活と産業の連動</li> <li>多様な商業形態の調和と発展</li> <li>地場農産物に触れる機会の創出</li> <li>魅力創出イベントの展開</li> <li>上尾ブランドの推進・開発</li> </ul>

## ③ 強み (S) × 脅威 (T) (差別化・克服戦略)

製造業の集積度の高さと潜在的な産業資源の存在は本市の強みですが、同時に事業者の高齢化や後継者不足などの脅威にも晒されています。こうした状況下、「ものづくりのまち上尾」をアピールし、市民に製造業を身近に感じてもらうことは有効な取組みです。取り組むべき施策としては、産業観光の推進、新たな技術への対応力と稼ぐ力の向上、官民連携による情報発信の強化、幅広い交流・連携の促進などが考えられます。

SWOT	戦略の方向性	施策
S-5 製造業の集積度の高さ S-12 潜在的産業資源の存在 T-5 事業者の高齢化、後継者不足、人材不足	「ものづくりのまち上尾」のアピール	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業観光の推進</li> <li>新たな技術への対応力と稼ぐ力の向上</li> <li>官民連携による情報発信の強化</li> <li>幅広い交流・連携の促進</li> </ul>



### 3 基本方針の精査

前述のSWOT分析の結果より、戦略の方向性や考えられる施策が見えてきたことから、「1. 目指すべき姿（将来像）の設定」において提示した基本方針（①豊かな暮らしを支える産業振興、②持続的発展を支える産業基盤の整備、③にぎわいの創出）を、次のとおり精査しました。

#### ◎基本方針

- ①豊かな暮らしを支える産業振興  
⇒ 豊かな市民生活を支える産業振興
- ②持続的発展を支える産業基盤の整備  
⇒ 新たな分野へのチャレンジと持続的発展を支える産業基盤の整備
- ③にぎわいの創出  
⇒ 地域資源を活用した魅力とにぎわいの創出

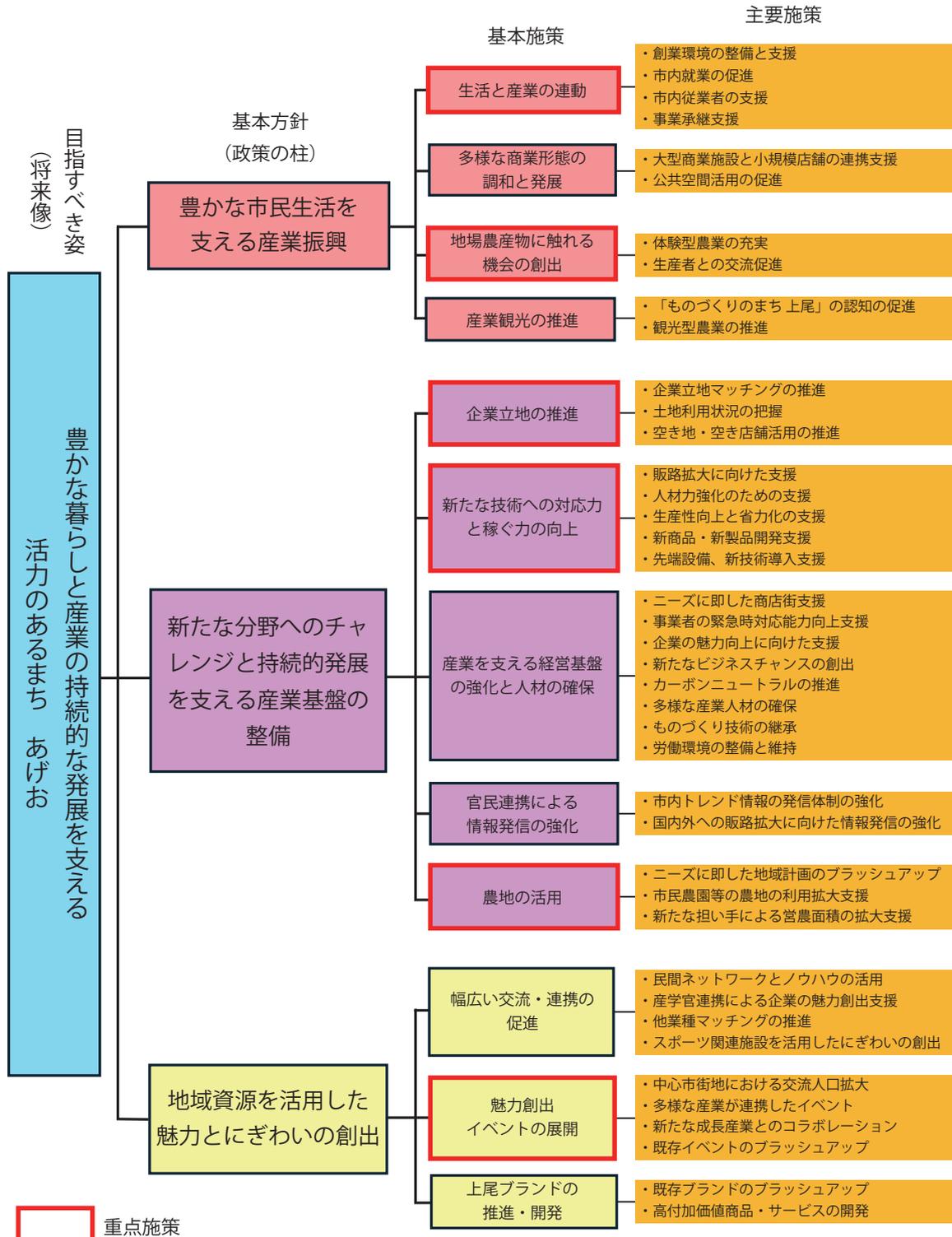
#### 精査のポイント

- ①当方針で求める「豊かな暮らし」は、所得や雇用を生み出す経済的な豊かさに加えて、本市に居住する多くの市民生活の質的な豊かさにも重きを置いていることをより分かりやすく表現するため、「豊かな暮らし」を「豊かな市民生活」に改めました。
- ②産業基盤の整備においては、企業の持続的な発展を支えるとともに、時代のニーズに即した様々な新しい分野への意欲的な取組みを行政がサポートする点も重要であるため、「新たな分野へのチャレンジ」を加えました。
- ③地域のにぎわいづくりにおいては、地域の特産物や自然、人材などの資源を活用することが重要であること、また、にぎわいとともに関心の創出も重要であることから、「地域資源を活用した魅力」を加えました。

## 4 第2次上尾市産業振興ビジョンの体系

### 1 | 体系図

「1. 目指すべき姿（将来像）の設定」と「2. SWOT分析の実施」結果の突き合わせ、「3. 基本方針の精査」により、新ビジョンの体系を導き出しました。



※第6次上尾市総合計画（後期基本計画）に掲げる産業振興施策の推進に寄与する施策



## 2 | こども・若者アンケートによる将来を担う世代の意見との突合

新ビジョンの体系及び各施策を定めるにあたり、将来の上尾市を担うこどもや若者の声を集めるため、小・中・高校生を対象に、消費行動、産業とのかかわり、地域イベント参加、就業意識など生活に密着した項目についてアンケートを実施しました。

	市内小学校 5年生	市内中学校 2年生	市内高等学校 2年生
調査方法	オンライン		
調査実施期間	令和7(2025)年 7月17日～7月31日		令和7(2025)年 10月3日～10月13日
アンケート回答数	198件	150件	649件

アンケートの結果から、「消費行動」については、小・中・高校生ともに大型商業施設志向が強いことから、商業集積の維持と個人経営店とのバランスが課題であるため、基本施策「多様な商業形態の調和と発展」との関連が確認されました。

「ものづくり見学」については、小学生の約7割が興味ありであったことから、産業観光の潜在的な需要があると考えられるため、基本施策「産業観光の推進」との関連が確認されました。

「農業体験」については、小学生の9割以上、中学生の8割以上が興味ありであったことから、農業体験ニーズが高く、都市農業の活用の余地が大きいこと、また、「農業の興味ある働き方」について、高校生の約4割が兼業や半農半Xに関心があったことから、基本施策「農地の活用」との関連が確認されました。

その他、「産業を支える経営基盤の強化と人材の確保」や「上尾ブランドの推進・開発」などの基本施策とも関連が確認されたことから、こども・若者の考えと新ビジョンの体系及び各施策に大きな乖離がないことが確認できました。